



参加費 無料

高大接続リーディングセミナー 2025 年度 秋・冬（ハイブリッド開催）

リーディングセミナー（主催：金沢大学高大接続プログラム）では、近年、大学界隈において話題の、高校生向けに書かれた（または高校生にも考えて欲しい）、新書や文庫を1冊、取り上げ、参加者で読書体験を共有します。

参加者間で、重要だと思った点、疑問に感じた点、面白いと思った点などについて意見交換したうえで、本書の紹介文を作成します。これらを通して、テキ

スト、そしてその学問的背景についての理解を深めます。ひとりの読書も良いですが、読書体験を共有する楽しさを、ぜひ、感じ取って下さい。参加に当たり、事前にテキストを読み、簡単な課題に答えてもらいます。

大学の授業（特に、ゼミナール形式で開かれるもの）では、このように1冊のテキストを読み合い、議論する（輪読する）ことがあります。大学らしい学びをいち早く体験してみませんか。

■ 開催方法

ハイブリッド開催

- ・ 対面：金沢大学角間キャンパス（教室は、KUGS 高大接続プログラム「マイページ」（ログイン後のサイト）内の「カレンダー」にて、お知らせいたします）
- ・ オンライン：申し込んだ方に、前日までにZoomURLをお伝えいたします

■ 申込方法

- ・ KUGS 高大接続プログラム「マイページ」内の「カレンダー」からお申し込みください
- ・ 利用者登録がまだの方は、KUGS 高大接続プログラムポータルサイトから、アカウントを作成の上、お申し込み下さい
- ・ 締め切り：開催日の3日前

■ 事前課題

- ・ 該当の図書を読み、簡単な事前課題に答えて下さい（回答フォームは別途案内いたします）

■ 対象

- ・ 高校在籍者～既卒2年者（高校1年生の参加も歓迎いたします）

■ 付記

- ・ 本セミナーは、KUGS 高大接続プログラム「大学での学び個別プログラム」の認定を受けています

■ 開催スケジュール

戸谷洋志『詭弁と論破：対立を生みだす仕組みを哲学する』（朝日新書、2025）

- ・ 日時：
 - ・ 2025 年 11 月 15 日（土）
 - ・ 13:00～17:00

「それってあなたの感想ですよね?」「嘘つきのやめてもらってもいいですか?」。このようなフレーズがはびこり、社会を翻弄しています。著者はこのようなフレーズを「論破芸」と揶揄しつつ、その特徴を分析し、対処法を提案しています。「エビデンス至上主義」「ポスト・トゥルースの時代」「集団分極化するソーシャルメディア」といった章立てで構成される本書をヒントに、議論と自体の意味、議論が成立する条件について考えてみましょう。

エイブラハム・フレクスナー、ロベルト・ダイクラーフ『役に立たない』科学が役に立つ』（東京大学出版会、2020）

- ・ 日時：
 - ・ 2026 年 2 月 21 日（土）
 - ・ 13:00～17:00

すぐに役に立つことが求められる現代ですが、研究者はそれと真逆の主張をしています。「役に立たない」科学が役に立つ」とはどういうことなのでしょう。二人のプリンストン高等研究所所長の主張に耳を傾けることで、「役に立つこと」に翻弄されない科学的思考に触れてみましょう。

■ 受講生の声

- ・ 自分一人では思い至らなかったような視点や疑問点などを聞くことができました。
- ・ みんなの前で自分の意見を発表するのは勇気がいるけど、セミナーでは話す機会を何回も設けてもらうことで、自信にもつながりました。また、今まで気づかなかった視点も共有することができ、本当にありがたい体験でした。
- ・ 実際に大学内でセミナーを受けることができ、大学生活を想像するきっかけとなりました。自分自身の勉強のモチベーションが向上し、金沢大学に行きたいという気持ちがいっそう強くなりました。また、受験期には本を読む機会が減ってしまったため、自分の視野を広げることができて、とても充実した時間となりました。



岩井淳『ヨーロッパ近世史』（ちくま新書、2024）

- ・ 日時：
 - ・ 2026 年 2 月 28 日（土）
 - ・ 13:00～17:00

中世と近代に挟まれた「近世」とは一带どのような時代なのでしょう。教科書では近代の準備段階という簡単な位置づけに留まっていますが、者は多様な地域が複雑に絡みあう独自の時代として解釈することを提案しています。著者が重視する「複合国家」という西洋史学の最新の分析概念、研究動向に触れることで、教科書でならう世界史を塗り替えてみましょう。

松本俊彦『誰がために医師はいる：クスリとヒトの現代論』（みすず書房、2021）

- ・ 日時：
 - ・ 2026 年 3 月 21 日（土）
 - ・ 13:00～17:00

「嗜癡障害臨床の最前線に怒り、挑み、闘いつづけてきた精神科医の半生記」です（嗜癡（しへき、英: addiction、アディクション）、神経心理学的な障害を指します）。深い悩みを抱える患者に対して、医師にできることは何でしょうか。著者は、患者に寄り添い、患者を支える一方で、「誰か」に依存できる社会を作れることを訴えます。一緒に医師という職業が社会で果たす役割について考えてみましょう。

■ 主催・問い合わせ先

主催

- ・ 金沢大学 高大接続コア・センター

問い合わせ

- ・ 講師：苅谷千尋
 - ・ kariyach@staff.kanazawa-u.ac.jp
- ・ 高大接続コア・センター
 - ・ kugspro@adm.kanazawa-u.ac.jp
- ・ 過去のセミナーの模様などは、以下の QR コードからご確認ください

セミナー詳細

